

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

〇〇高等学校

〇〇〇〇

単元名：体育理論（豊かなスポーツライフの実践の仕方）

指導学年：3学年

内容：運動を継続していくために、将来の具体的な生活リズムを検討し各個人で自分にあった無理のない運動計画を立てた。その際に、体育分野で実践した「体づくり運動」と関連することで理論と実践が一体となるように配慮した。

○「公開授業の研究協議において、出た意見やその後考えたこと」について

11月15日に実施された学校体育研究発表大会の高等学校部会にて授業を実施した。研究主題が「主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践と改善」であったため、以下の点について工夫を加えて授業実践を行った。

- ①主体的・対話的な学習を実現するために、グループワークを取り入れ、卒業後の生活リズムは各個人で大きな違いがあることを考えさせ、運動を継続するには自分に合った具体的な計画が必要であることを理解させた。
- ②深い学びを実現するために、各個人で立てた計画を発表させ、改善点などについて話し合う機会を設けた。
- ③より具体的な計画となるように、卒業生の実際の事例などを用いて参考にさせた。

まとめ

今回の研究発表で出た意見としては、生徒に深い学びを実現させるために最も重要である点は「学校や生徒の実態を正確に把握する」といったことである。本校では授業を実践した時期に就職先や進学先が決まっている生徒がほとんどであったため、卒業後の生活の見通しが立てやすい状況であった。そのため、授業の目標であった「具体的な運動計画を立てる」ことを実現できたと思っている。しかし、大学の一般入試やセンター試験を受験する生徒たちにとっては、この時期に同様の内容を実施したとしても同じような授業の成果を得ることは難しいと考える。特に保健体育の分野は「卒業後」を重視し授業実践を行っており、小学校から高校までの12年間で培った「体育的学力」が発揮されるのは、高校卒業後である。そのようなことを踏まえて検討していくと、授業方法なども重要であるとともに、学校の進路傾向を把握した上で、授業の計画と実践をしていくことで「対話的で深い学び」に繋がるのではないかと考えた。